



寺本 明, 山下 俊一●監訳
秋野 公造, 太組 一朗●訳

『神経解剖集中講義』

書評者

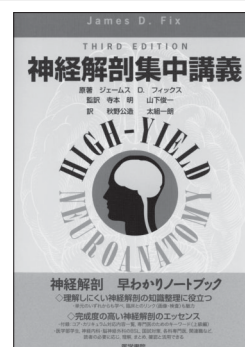
松村 明 (筑波大学脳神経外科学教授)

このたび、寺本 明先生・山下俊一先生・監訳、秋野公造先生・太組一朗先生・訳による『神経解剖集中講義 (High-Yield Neuroanatomy, 3rd edition, by James D. Fix, Ph.D.)』の訳本が出版された。本書の原題でまず目を引くのが“High-Yield”という言葉であるが、訳本では“集中講義”となっており、翻訳にあたっての工夫が感じられる。“High-Yield”とは、直訳すれば高収益、高利益、高収率といった意味があるが、本書はまさにそのような著者の哲学がふんだんに盛り込まれている。実際に内容を拝見すると単なる神経解剖書とは異なり、解剖図譜、MRI 画像、CT 画像などがふんだんに盛り込まれており、臨床に即した実用的な記載になっている。

さらには疾患の画像や疾患の病態の説明が随所に盛り込まれており、基礎的な神経解剖と実際の疾患の結びつきが一気に学習できるように工夫されている。まさに“High-Yield”、もしくは

は“集中講義”といった表現がぴったりとあてはまる好書である。

近年、日本でも趨勢を極めている、臓器別統合型カリキュラム、PBL チュートリアルのためのよい教科書はなかなか見つからず、それぞれの解剖書、生理学、臨床症候学の教科書を並べて学習しなければならない場合も多い。本書は神経解剖から神経症候についてすべてが網羅されており、神経解剖講義・実習から臨床症候学までを1冊で網羅できることは教える側からも教わる側からしても非常にありがたい。学部神経解剖実習においても、最近では基礎医学教官に臨床医学の教官も加わって神経解剖実習を行っているところもあると聞いている。神経解剖がそのまま神経臨床につながっていくことを実感することにより学習のモチベーションが高まったり、解剖の知識をその場で神経症候の理解に用いることができるといった学習の効率化という意味合いでも、本書は神経系の



コースには最も適した著書といえよう。

本書の最後の付録に脳神経の一覧、参照図、コア・カリキュラム対応内容、専門医のためのキーワードなどが追加されており、訳者らが本書をさらにグレードアップさせるための意気込みが感じられ、原著にも増して充実した内容にパワーアップしている。

本書は医学部学生の神経系コースのテキストとしては必須の書であるが、看護師、理学療法士、作業療法士、その他神経解剖に関連する医療分野の学生にも推薦できる良書である。さらには、忙しい中で受験勉強を行わなければならない脳神経外科や神経内科専門医受験生の医師にも効率よく学習のできるテキストとしてぜひ活用いただきたい。

B5 頁 228 2007 年 医学書院刊
定価 3,675 円 (本体 3,500 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-00349-0]